

飛鳥山新能便り

本年三月二日、飛鳥山薪能プロデューサー・旅川雅治氏が享年六十二歳にて急逝された。

旅川氏は、故・木村薰哉氏が飛鳥山公園の舞台を見て「ぜひ、ここで薪能をやりたい」と思い立った時から、木村氏の夢の実現させるために、第二回から舞台監督・プロデューサーを引き受けられた。

創業三五〇年の檜書店が発行する月刊『観世』令和元年一〇月号に、二十六世・觀世宗家・觀世清和氏、梅若六郎家当主・梅若 実氏、山本東次郎家四世・山本東次郎氏による【特別座談会】「能舞台を懸け橋に」—旅川雅治氏を語る—座談会が企画され、掲載された。旅川雅治氏をよく知る觀世清和宗家と、梅若実先生、山本東次郎先生のお話により、旅川さんの能楽界における業績や足跡を辿り、ご冥福をお祈りしたい。

觀世清和師

二十六世・觀世宗家。一九五九年生まれ。二十五世・宗家・觀世左近元正の長男。一九九〇年、家元を継承。

「旅川さんは、最初は舞台制作のみをやっていましたが、能楽公演のプロデュースも手掛けられるようになります。薪能や神社やお寺、市民ホールなどの特設舞台での上演、さらに海外公演などの機会も年を追つて増えていきましたが、その様な時に舞台監督として、旅川さんの存在は心強かったです。地方公演などで、作り物の制作も手伝つてくれました。「旅川さん、なんとかして」と無理をお願いしたことは一度や二度ありません。いつも「畏まりました」と引き受けってくれました。能楽プロで旅川さんの教えを受けた若い人が、今、觀世能樂堂での舞台制作に携わっています。細かいところまで気が回るので有難いですし、旅川さんから教えてもらっているなと感じます。旅川さんが拓いた道をしっかりと歩いていくて欲しいですね」

梅若 実師

四世・梅若実。梅若六郎家当主。一九四八年生まれ。

「舞台監督は主催者や後援者、来場されるお客様、あらゆる方向に気を配らなければなりません。地方公演や海外公演は旅川さんなしにはできなかつたですね。富士吉田での薪能も旅川さんが舞台監督を・プロデューサーを務めていて〈道成寺〉鉄骨を

山本東次郎師

狂言大藏流三世・山本東次郎家の長男。一九三七年生まれ。

「私の一番思い出に残っているのは、ホテルで『三番三』を舞うことになった時のことです。特設舞台でうまくいくだろうかと不安があつて、旅川さんに頼みました。もともとホテルは、音が響かないように吸収する。足拍子などが聞こえない可能性がありました。しかし、これでは『三番三』の意味も面白さも伝わらない。すると旅川さんがとても良い舞台を作つてくれました。床が安定していて歪みやずれもなく、音も響く。やることはすべてやつてくれました。その仕事ぶりをみてみると、旅川さんは自分が先頭に立つて働くんですね。真心を感じました。ハートのある人だったと思います。本当に惜しい方を亡くしたと思います。去年は文化庁長官表彰を受けられました。舞台を支えられる方への賞ということで誠にふわわしい受賞ですね。旅川さんが設立した能楽プロは継続されるそうですから、志を継いでいってほしいと思います。」



旅川雅治氏（享年六十二歳）

（株）能楽プロ代表取締役。能楽プロデューサー

一九五五年東京都生まれ。

一九七七年梅若能学院会館事務局入局。

一九八九年小坂部恵次師（京都造形芸術大学准教授）に師事。

一九九六年能楽プロデューサー・舞台監督として独立。

中央大学法学部卒業。芝浦工業大学工学部中退。

月刊『観世』令和元年一〇月号より抜粋転載
【特別座談会】「能舞台を懸け橋に」
—旅川雅治氏を語る—

